

きょうから障害者週間

障害があるなどの理由で長時間働くことが難しく、社会参加がしにくい。そういった人が働く能力を發揮することが可能な、週20時間未満の「超短時間雇用」が注目されている。障害者雇用への理解が深まる上に

人手不足の解消や業務効率の改善につながるなど、企業にとつてのメリットも少なくない。12月3日から9日は障害者週間。ニット商品のアパレル企画を専門とする「インブルー」(神戸市中央区)で週1日3時間働く、精神障害のある女性(38)に利用しての感想や仕事内容などを聞いた。

働く手応え得る機会を

超短時間雇用にも高まる期待

神戸港に近いレトロビルで、37のオフィススペースが入る「デザイン・クリエイティブセンター神戸(KITTO)」。この一角「インブルー」で女性は熱心にパソコンに向かっていた。ネコなどの動物をデザインしたオーダーメイドのニット商品を作るため、写真をもとに専用ツールを用いてコンピューター上で製図しているという。「今まで就いた仕事とは違って、やりがいを感じることができて、ネコ好きなので、画像加工がなおさら楽しい」。女性の真面目な働きぶりに鈴木弘美社長も信頼を寄せ、背中を温かく見守る。

デザインを仕事に

子ども頃から街の看板やお菓

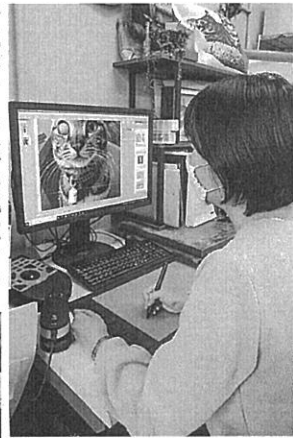


病気・家事+仕事…「ちょうどいい」/会社の業務効率化

新企画に携わる

女性の加入によってスタッフが3人になったインブルーは、以前から温めていた計画をスタート。「いつか飼いの主の元から旅立

職場の様子。女性の加入で新たな企画も動き出した。神戸市中央区、インブルー



預かったネコの写真を元に、パソコンでニット編み図案の元データを作る女性

写真そっくりでネコがデザインされたクッションカバーやピローケース



「彼女はシャイな性格かなと思うので、声をかけるのはほどほどに。ただ『写真そっくりのクオリティー』という商品コンセプトから外れないようには助言して。経営者が柔軟な考えを持ってれば、障害者の可能性がもっと広がるのでは」と指導役の鈴木社長。女性も「写真的に画像を作成するところが難しいので、安心して任せてもらえるように技術を磨きたい」と意欲を見せている。

「インブルー」サポート」神戸市内に5カ所

神戸市では市内5カ所にある「インブルー」を通じて、在職中や就職を希望する障害者にさまざまな支援を行っている。

その一つとして女性のように障害の特性から長時間就労が難しい人の社会参加を促すため、2017年から東京大先端科学技術研究センターと共同で「超短時間雇用創出プロジェクト」を推進。20年9月末までに74人が就職している。

超短時間雇用プロジェクト推進 専門スタッフが障害者支援

雇用前に状況の聞き取りや作業体験により業務への適性を確認する▽雇用者が担う業務のマニュアルを作成する▽などの条件を設定。「超短時間雇用創出コーディネーター」と呼ばれる専門スタッフが企業に出向き、「業務切りの出し」でどんな仕事か超短時間雇用に適するかを検討▽本人の意向や職場の声をヒアリング▽業務マニュアル作成の手伝いなどのサポートをし

神戸市の障害者就労相談窓口

- ◆しごとサポート中部 (神戸障害者就業・生活支援センター) ※神戸市内 ☎078-672-6480 FAX078-672-6486
- ◆しごとサポート東部 ※東灘区、灘区 ☎078-891-3890 FAX078-891-3891
- ◆しごとサポート北部 ※北区 ☎078-982-9598 FAX078-982-7110
- ◆しごとサポート西部(超短時間雇用創出コーディネーター) ※垂水区、西区 ☎078-708-2861 FAX078-704-4040
- ◆しごとサポートICT ☎078-822-1073 FAX078-845-2918

PR

「障害者週間」啓発キャンペーンは、神戸市・神戸新聞社が共同で行っています。

私たちも応援します。

(一社)神戸銀行協会
 ワーク

オフィス・セスト
 アスタッフ(株)

フィールドデザインオフィス(株)
 システム

[順不同]

神戸新聞